

男子新体操に 恋してる！



BOYS2010・上

椎名桂子

TBSドラマ「タンブリング」放送直前！ 勝手にタイアップ企画～
男子新体操の魅力を伝えます！～青森山田高校～

青森山田高校は2009年インターハイ男子団体の優勝校です。

記録をさかのぼってみれば、1985年のインターハイで2位になって以来、インターハイ3位までに名前のない年はわずかに3回、2009年の優勝はじつに9回目というおもしろおされぬ男子新体操の強豪校です。

しかし、青森山田高校を有名にしたのは、その新体操が、ただ「うまい」「強い」からだけではなく、その先進性にあると言えるでしょう。

以前から強かった、以前から美しかった、青森山田の新体操ですが、ここ数年は、それまでの男子新体操とは一線を画したダンス的な演技で、注目を集めています。

大きなきっかけとなったのは、おそらく2007年の演技ではないかと思えます。2007年のインターハイで

青森山田は3位に0.025点及ばず4位。珍しく3位以下という成績でした。しかし、その演技のインパクトではナンバーワン！という声も多く聞かれました。

この演技冒頭の「千手観音」(6人が縦に重なるように並び、両手をすこしずつずらして広げて、正面から見ると千手観音のように見える動き。)のインパクトは絶大でした。男子新体操を題材にしたCMで話題になったカルピスソーダではこの「千手観音」のアニメ動画を配信していたほどです。



それまでの青森山田の演技も、いつも美しく、かっこよかったには違いありませんが、この2007年の演技には、男子新体操を見慣れていない一般の人が見たときに、いい意味で「これが男子新体操？」とイメージがひっくり返るくらいの斬新さがあったと思います。2008年の演技も、正統派のダンス！というイメージの曲にのせて6人がバラバラ



に動き始めるオープニングから、後半ではこのうえなくもの悲しい「シンドラーのリスト」に曲が変わり、ラストは再びバラバラな動きを見せておわる、ダンスブルなうえにストーリー性の感じられる作品へと進化していました。

ダンス的な動きは、ほかのチームにもかなり見られるようになってきていましたが、青森山田の動きはやはり一歩先をいっている、腕や上体の動きの柔らかさが卓越していて、その結果、「空気を動かす」演技ができる、そのことを見せつけてくれた 2008 年の演技でした。

そして、2009 年には、ダンス的な美しさに加えて、いちだんと磨きがかかった徒手能力の高さ、男子では普通取り入れないような動きでさらにスタイリッシュになった作品を見せてくれました。演技序盤に男子新体操ではお約束の6人そろって片足を後ろにあげて止まるバランス(パレエでいうアラベスク)が入っていますが、この脚の上げ方が、 Rond 気味(いったんアチチュードの形を見せてから脚を後ろに回



す)で、さらに上げおわった脚の位置の高いこと！ 全日本選手権でも、このバランスで「うおー！」と歓声があがっていました。ダイナミックなタンブリング以外でも、歓声があがる、それが青森山田の強さなのです。

後半では6人そろってのアチチュードターンもあり、最後には、フロアの左右に3人ずつ分かれて両方からバク転の連続で交差するという、「絶対にぶつかる！」ように見える独特なタンブリングという見せ場もあり、インターハイ王者にふさわしい演技だったと思います。

男子新体操に注目が集まり始めたころ(2005 年あたりでしょうか)、とくに高校生の団体はより高



く高く人を積んでいく「組み」がエスカレートしつつありました。たしかに壮大な「組み」は、迫力があるし、決まれば爽快！ 見ている側も楽しめず。しかし、当然危険はつきものだし、「より高く」が高い評価を受けるようになってしまうのは、本来の姿ではないのでは、という危惧も、私は感じていました。

そんな流れの中で、青森山田が見せた「より美しく、よりダンスブル

で、「ストーリー性の感じられる演技」が、高い高い組みを駆使した演技と互角に評価され、ときには勝つこともあるということが、男子新体操の多様性の表れのように思えました。

「男子新体操ってどこがいいの？」と、ピンとこない方、今でも「男が新体操なんて気持ち悪い～」なんて思っている方、ぜひ、青森山田の新体操を見てみてほしいと思います。You Tubeにもたくさんアップされています。男子新体操がどんなに美しく、カッコいいか、わかってもらえると思います。青森山田の演技を見れば、山本裕典くんをはじめとしたイケメン俳優軍団が男子新体操に挑戦するドラマ「タンブリング」がますます楽しみになるに違いありません。

<撮影:榊原嘉徳>

TBSドラマ「タンブリング」放送直前！ 勝手にタイアップ企画～ 男子新体操の魅力を伝えます！～鹿児島実業高校（団体）～

私は、もともとは女子の新体操を取材して記事を書いているのですが、数年前から「男子はやらないんですか」と言われることが増えてきました。男子新体操に関心をもっている人は確実に増えているのを感じています。そして、そういうときに必ず話題になるのが、この学校です。「鹿児島実業の演技をYou Tubeで見たんですけど、おもしろいですよね～、ぜひ取材したい」何回かそう言われたことがあります。

そして、そのうちの1つは、実現しました。2008年の埼玉インターハイのときに、「高校生新聞」で鹿児島実業を取材するはず、だったのです。が、なんと！ その年、鹿児島実業は、強豪ひしめく九州地区を勝ち抜くことができずインターハイに団体では出場できませんでした。個人の選手が出場していたため、監督さんへの取材はでき、記事も掲載されましたが、インターハイで鹿児島実業の演技が見られなかったことはとても残念でした。いや、私だけでなく、多くの人にとって「鹿児島実業のいないインターハイ」はとてもさびしかったのではないかと思います。鹿児島実業高校は、そんなチームです。

まだ鹿児島実業の演技を見たことがないという人は、You Tubeやニコニコ動画などで検索してみてください。すぐにたくさん見つけることができます。そして、そのすさまじいビュー数に驚くでしょう。

なぜそんなにも多くの人に見られているのか？ 鹿児島実業の演技は男子新体操では異質な「コミカルな演技」なのです。曲も「サザエさん」や「キューティハニー」のようなアニメソングや、モー娘。ピ



ンクレディーなどを使い、動きにも小島よしおやはんにやなど、いわゆる笑いもとるものが入っています。

しかし、ただおもしろおかしいだけなら、それは「高校生の悪ふざけ」で終わってしまいます。そうではなく、鹿児島実業の演技は見事な「エンタティメント」になっているのです。曲や振り付けがおもしろいだけではこうはなりません。音楽や音と絶妙にマッチした動きを、見事なまでに合わせるのには、並大抵の練習でできることではないと思います。また、コミカルな動きも、彼らの見事な間合い、呼吸あってこそ生きるのです。

一歩間違えれば「悪ふざけ」に見えかねないことを、彼らは真剣にまじめに熱くやっています。だから、人々は面白がり、そして感動するのです。

九州は、男子新体操の激戦区です。そんななかでは「強豪校」とは言えなかった鹿児島実業の樋口監督は、「ビデオをあとで再生するとき、早送りされない演技をしたかったんですよ」と、2008年のインタビューで語ってくださいました。「うちは強いチームじゃないから、普通の演技だととばされてしまいますから」

「もう一度見たい！」と思わせる演技をする、そのこだわりから生まれたのが、男子新体操でも稀有な存在感を示す鹿児島実業の演技なのです。そして、その裏にあるのは、樋口監督の、「子ども達にいい思いをさせてやりたい」という愛情。それもインタビューのときに強く感じました。

「タンブリング」を見て、男子新体操に興味をもった人には、ぜひぜひ鹿児島実業の演技を見てもらいたいです。男子新体操はほんとかっこよくて美しくステキだけど、それとはまたひと味違う「独自の男子新体操」を追究しているこんなチームもあるのだということを知ってほしいと思います。



いや、なによりも、絶対に笑えますから(笑)！

<撮影: 榊原嘉徳>

TBSドラマ「タンブリング」放送直前！ 勝手にタイアップ企画～男子新体操の魅力をお伝えします！～NPOぎふ新体操クラブ（団体）～

男子新体操は、ここ数年めざましい変化と進歩をとげてきました。今でこそ、その演技をひとたび見れば「なんて美しい、なんてかっこいい！」と思えることが多いですが（「タンブリング」への出演が決まってから初めて男子新体操を見たというタレントさんたちも「すばらしさに驚いた」と口をそろえて言ってますよね）、正直言ってちょっと前まではここまでではなかったと思います。

もちろん、一部のトップチームはかなりハイレベルな演技を見せていたと思いますが、なにしろ競技人口が少ないですから、全体のレベルは決して高いとは言えなかった・・・と思います。

ところが、ここ数年、皮肉にも「国体種目からの消滅」あたりを契機に、男子新体操が注目されることが多くなり、その注目に応えるがごとく大学も高校もどんどんレベルアップしてきました。そして、その波はついにジュニアにも波及してきた、ようです。

いや、むしろジュニアの底上げが進んできたからこそ、今の高校生、大学生のレベルアップがあったと言えるのかもしれませんが。「小さいころから基礎を習得してきた子ども達がジュニア→高校→大学と続けていくなかで開花する」そのラインが確立しつつある、ように思えます。

その典型が、NPOぎふ新体操クラブです。

画像を見てもらえばわかりますが、年齢も体格もかなりばらつきがあります。競技人口の少ない男子ジュニアでは、女子のように狭い年齢幅で団体を組むことが困難なので、小学生・中学生の混合チームは当たり前なのです。シンクロ性が重要な男子新体操団体競技において、この体格差は致命的、なはずですが、ジュニアでもその不利をものともせず、見事な演技を見せてくれるチームも増えてきました。NPOぎふもそんなチームの1つです。

また、最近のジュニアチームを見ていて感じるのは、「本気さが違う」ということです。すこし前までは、男子新体操のジュニア選手は、「なんか知らないけど、こんなことやられちゃってる」みたいな子も多かったように思うのです。なぜかやっているけれど、本気でやろう！ という気持ちまでは本人はもってない、みたいな感じというのでしょうか。

たとえばサッカーや野球をやっている男の子達は、中村俊輔だのイチローだの、ワールドカップだの、甲子園だのを見て、「あんな風になりたい！」と思う、願う、それが頑張る原動力になると思うのです。しかし、男子新体操にはそういう「あこがれのモデル」が希薄だったのではないかと。それがちょっと前までのジュニアの「本気でない感じ」の要因ではなかったかと私は推察します。



男子も女子も、新体操の練習は地味で厳しいものです。遊びたい盛り子ども達が、そんな練習に打ち込むためには「あんな風になりたい！ ああなれたらいいな」というモデルであり、夢が必要なのです。ところがちょっと前まで男子新体操にはそれがなかった。名選手はいつの時代にもいたには違いないのですが、どんな名選手でも、「男子新体操」というだけで「え～、男が新体操？」と言われてしまう。そして、ごく一部の関係者以外からはあこがれられも、尊敬されもしない。それでは、たまたま子どものうちに、新体操に出会った男の子も本気で長く続ける気にはならなかったのではないかと、そう思うのです。



NPOぎふ新体操クラブは、女子の新体操では全国レベルのクラブです。その強さは、豊富な練習、厳しい練習に支えられています。NPOぎふの女子の強さは、「本気で取り組んでいる」ゆえの強さ、だと私は思っていました。このクラブの男子選手達は、そんな女子を身近に見て育っているはずで

男女の違いはあっても、「うまくなりたい」「強くなりたい」と願うならば、練習で頑張るのは当然のことだと自然に思えるのでしょうか。男子選手はまだ小学生が多いのですが、しっかりと基本の徒手能力アップをはかっていることがわかる美しい動きをします。それは、「向上心をもってまじめに練習し続けること」ができる子しか手に入れられないものだと感じます。「希少価値のある男子選手だから、この程度でいいだろう」という甘えのない練習をきつとしているのだらうと思います。

そして、なんと言っても、NPOぎふの男子の躍進を支えているのは、社会人チーム・アルフレッサ日建産業の存在だと思います。指導など直接的な面での力も大きいでしょうが、それ以上に、「成長してからの男子新体操のすばらしさ」を身近に見ることができる、という効果ははかりしれないと思うのです。身近にすばらしい見本がいることで、頑張る姿勢から、「演じる」ということまで、ジュニア選手達は日々多くのことを学んでいるはずで

小学生の選手たちは、もちろん技術的にはまだまだ発展途上です。しかし、NPOぎふのジュニア選手達は、「本気で」アルフレッサの選手達のようにかっこよく、美しい演技をしたいと思っている。そこに向けて努力している。それが感じられる演技を見せてくれます。

男子新体操は、多くの人を感動させることができる。だからこそ、ドラマにもなるほどのムーブメント



が起きてきました。そんな大学生や高校生達、そして社会人の演技を見て育つジュニア達の意識や能力が以前とは変わってくるのも当然かもしれません。

そして、ジュニアのレベルアップは、高校生や大学生、男子新体操全体のさらなる進化につながるに違いありません。

<撮影:榊原嘉徳>

TBS ドラマ「タンブリング」放送直前！ 勝手にタイアップ企画～ 男子新体操の魅力を伝えます！ ～井原ジュニア新体操クラブ（団体）～

「井原」と書いて「イバラ」と読みます。岡山県の地名です。

岡山県といえば、今、もっとも旬なスポーツマン・高橋大輔選手の出身地でもあります。フィギュアスケートだけでなく、男子新体操でも岡山県は高橋大輔ばりの選手達を生み出しつつあります（いや、じつはすでに生み出しているのですが）。

高橋大輔選手の活躍で、一躍脚光を浴びた岡山県ですが、とくべつ「芸術性豊かな県民性」という印象はないと思います（失礼ながら）。しかし、岡山県は男子新体操では有力選手を数多く生み出し、独自の大会も開催するなど、男子新体操の発展に寄与し続けている聖地なのです。

そんな岡山県にある「井原ジュニア新体操クラブ」は、レベルアップ著しいジュニア男子の最高峰にいるクラブです。2009年は全日本ジュニアで優勝し出場権を得た全日本選手権で、大学生、高



校生のトップチームに混じって堂々の演技を披露。予選順位は10位で、8位までが進出できる決勝で演技することはできませんでしたが、参加チーム中もちろん最年少、小学生も含むチームでの10位という成績はすばらしいものでした。

そして、その演技は、成績以上のインパクトを会場に与えたのです。

この画像(←)、1人の選手が空中高く飛んでいるのがわかるでしょうか。小柄な選手を含むジュニアチームゆえの強みとは言えるかもしれませんが、小柄なだけではここまで高く飛べません。さらに、高く飛んでいるだけでなく（ジャンプの場合の「とぶ」は「跳ぶ」をふだんは使いますが、このジャンプには「飛ぶ」がふさわしいと思う）、空中姿勢の美しいこと！ここまで見事な開脚ジャンプは、柔軟性では男子に勝るといわれる女子選手でもなかなかできるものではありません。

柔軟性だけでなく、男子ならではの筋力、瞬発力あってこそこのジャンプでしょうが、この高さからまるで猫のようにふわりと着地するのですから・・・おそるべし、です。

井原ジュニアの団体演技には、こういったスーパーサプライズ&アメイジングな飛び技も多く入っていますが、それだけなら「ちびっこ軍団の軽業」です。ところが、井原ジュニアの選手達の動きの美しさ、表現力は、高校生や大学生にもひけをとらない(は言いすぎ？ 少なくとも迫るものはあります！)のです。



昨日アップしたジュニアクラブ・NPOぎふ新体操クラブ同様、この井原ジュニア演技からも、小学生の男子の子達が「本気でカッコいい男子新体操」を目指して、努力し続けていることが伝わってきます。



高校の男子新体操強豪校である県立精研高校(近年は井原・精研高校として出場)が身近にあり、男子新体操のステキさ、カッコよさを十分知っているのでしょうか。さらに、子ども達をバックアップする親御さんたちも、男子新体操のすばらしさをよく知っていて、力いっぱいチームを応援している、観客席の熱さからそれはしっかり感じられます。

進境著しいジュニアの男子新体操、そして、「タンブリング」の放送でいちだんと火がつきそうな男子

新体操そのものの人気を、井原ジュニア新体操クラブのような、「ホンモノの男子新体操」を見せるジュニアクラブの存在が支え、引っ張っていくのではないのでしょうか。

高橋大輔選手を見て、「踊る男の子ってステキ！」と思ったお母さん達、「うちの息子も大ちゃんみたいに」と夢見ているお母さん達、でも、フィギュアはなかなかやれるとこがない・・・なら、男子新体操ですよ、絶対！ 岡山県で第二の高橋大輔を目指すなら、井原ジュニア新体操クラブにGO！ でしょう。

百聞は一見にしかず、以下のURLで、2009年全日本選手権での井原ジュニア新体操クラブの演技は見るができます。ぜひ、見てください。この動画は、日本体操協会のギャラリーにアップされているものです。決勝進出させていないチームの演技がこのギャラリーにアップされていること自体、めったにないことです。つまり、この演技にはそれだけのインパクトがあったということです。

現に、2009年の全日本選手権最終日に行われたエキシビションにも井原ジュニアは急遽出場。その演技に、会場は最大級の盛り上がりを見せまし



た。たしか、この日に「タンブリング」の制作チームや出演するタレントさんも見学に来ていたんですよ。井原ジュニアの演技もきっと彼等は見ているはずですよ。みなさんも、ぜひ、見てください！

<http://www.jpn-gym.or.jp/goods/video/2009/rnat/data/md.html>



<撮影:榊原嘉徳>

第2章 高校選抜大会 in 恵庭

TBSドラマ「タンブリング」放送直前！ 勝手にタイアップ企画～
男子新体操の魅力を伝えます！
～第25回高校選抜大会レポート（男子個人）～

いよいよ今日から「タンブリング」が始まります。
この企画も、明日からは「直前！」の文字をとらなきゃいけませんね。

では、「放送直前！」最後の記事。

「タンブリング」は、男子新体操に懸ける高校生たちのドラマということなので、今回は高校生ネタで。

3月27～28日に北海道は恵庭市総合体育館で、第25回全国高校新体操選抜大会が行われました。北海道だったので、私は観戦に行けなかったのですが、私の新体操観戦仲間のなかには、しっかり駆けつけた人がいました。

先日、その観戦に行った1人(Aさん)からの北海道土産が届きました。それは、「白い恋人」でも「マルセイバターサンド」でもなく、書き込みびっちりのプログラム(笑)。それも男子のみ！

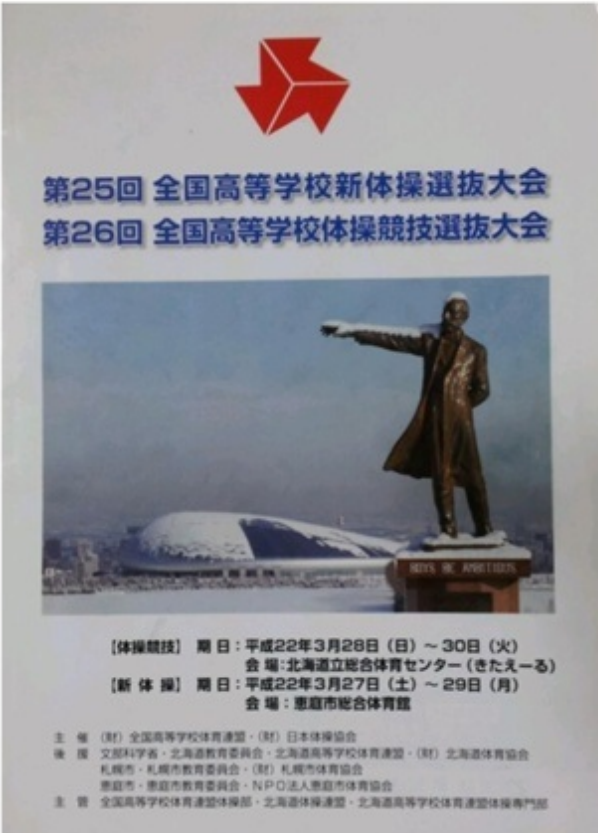
私が、「男子特派員」と勝手に任命したために、とてつもなく熱心に男子新体操を見てきてくれたんですね。いや、ほっといてもどうせ熱心に見る人なんですけどね、見るだけじゃなくメモまでとってきてくれたわけです。ありがたい・・・。

しかし、そのメモだけでは記事までは書けないので、一昨日、Aさんに会って取材してきました。取材と行っても、郊外のショッピングモールのフードコートでしたけどね。Aさん、男子新体操の資料を束に持ってきました。どこまで熱心なんだよ！（人のことは言えませんが）

というわけで、今回は少し趣向を変えて、

特派員Aさんに聞いた！～

第25回高校選抜大会・男子新体操レポート



第25回 全国高等学校新体操選抜大会
第26回 全国高等学校体操競技選抜大会

【体操競技】 期日：平成22年3月28日（日）～30日（火）
会場：北海道立総合体育センター（きたえる）

【新体操】 期日：平成22年3月27日（土）～29日（月）
会場：恵庭市総合体育館

主催 (財)全国高等学校体育連盟、(財)日本体操協会
後援 文部科学省・北海道教育委員会・北海道高等学校体育連盟・(財)北海道体育協会
札幌市・札幌市教育委員会・(財)札幌市体育協会
恵庭市・恵庭市教育委員会・NPO法人恵庭市体育協会
主管 全国高等学校体育連盟体操部・北海道体操連盟・北海道高等学校体育連盟体操専門部

をお送りします。

「優勝した斉藤剛大くん(千葉県袖ヶ浦高校)は、とにかくきれいな選手。スタイルのバランスがよくて、身体のラインがきれいなうえに、動き方もとても美しいのよ。おまけに手具操作もうまい！ タンブリング中にもしっかり手具が動いていて、投げ受けも安定してたので、納得の優勝だったわ。とくにスティックの演技にはほんとに見とれちゃった。とにかく垢抜けた印象の選手で、演技だったわ。」

「2位の籠島遼くん(青森山田高校)も、品行方正な感じの美しい演技だったわ。青森山田だけに演技もドラマチックだし、曲線的な動きもバッチリ！ 手具操作もうまい。籠島くんは、現在、青森大で活躍している柴田翔平くんと同じ福島新体操クラブの出身で、2007年の全日本ジュニアでは個人総合優勝しているのよ。ちなみにそのときに2位だったのが、青森山田では先輩の小林翔くん！ 3位だったのが、今回の選抜で優勝した斉藤剛大くんだよ。」



「3位の斉藤良輔くん(埼玉栄高校)は、とにかくストイックな感じの演技で、私はすごく好きだったわ！ 筋肉がすごいよね、ごつい感じじゃなくて、今はやりの細マッチョ？ 美しい筋肉のつき方で見とれちゃったわ。個人的には、私は彼がインターハイではくるんじゃないかって思ってるのよ。ほんとにいい演技してたから。なにしろ2006年の全日本ジュニアでは3位、2007年は5位の实力者だしね。」

「4位の前田優樹くん(青森山田高校)は、かわいい。かわいいなんて失礼かもしれないけど、かわいいんだもん。おまけに青森山田だから演技もパワフルというより美しく華麗な印象でしょ。すごくきれいな選手だな～という感じだったわ。それでいてかなり勝ち気そうなところも見える演技ですごくよかった！ じつは前田くんは、愛知県の半田中学出身なのよ。そう、青森山田の先輩で2009年インハイ優勝の小林翔くんの後輩なの！ 2008年に半田中学が全日本ジュニアの団体に優勝した年のメンバーなんだよね。スター性は抜群！ じゃないかな。」

「同じく4位の石井侑佑くん(福島県立会津工業)も、とてもきれいで繊細な演技だった。福島県っ

てけっこう男子の新体操選手を輩出しているんだけど、柴田くんや籠島くんみたいなテクニシャンタイプとはまた違って、木村功さん(福島県立葵高校→花園大学)のタイプかな。情感豊かな美しい演技を見せてくれる選手になりそうな期待大よ。今回のロープの演技なんてロープ生きてるみたいだったからね～。女子でいうと成松エリナちゃんみたいな雰囲気で見せられるのよ～。ちなみに2007年の全日本ジュニアでは6位に入ってる選手だわ。」

「6位の友国剛章くん(岡山県立井原高校)はね、2008年のユースチャンピオンシップで11位に入ってる選手だね。さらに遡って見ると、2006年、2007年の全日本ジュニアの個人にも名前があるけど、どちらも棄権になってるのよ。井原ジュニアは団体も当然出ているから、団体優先だったのか、怪我でもしていたのかはわからないけど。ジュニア時代には悔しい思いをしてきた選手なのかもしれないわ。高校に入ってから伸びてきているようだから、今年のインターハイが楽しみだね。井原育ちだから当然、徒手能力は高くてきれいな動きの選手だし手具操作も正確なんだわ～。大柄で動きも大きくシャープだから、ちょっと大学生みたいな雰囲気がいいんだよね。」

「7位の福士俊輔くん(青森県立弘前実業高校)も、2008年のユースチャンピオンシップでは13位。全日本ジュニアでも2006年が8位、2007年が6位だから実力あるよね。ただ、青森県だから、インターハイへの出場が狭き門なんだよね。今年はユースチャンピオンシップもあるから、そこでも頑張ってもらいたいなあ。青森大学の福士くんとは兄弟なのかしら。堅実で安定してる印象の演技が、ちょっと似ている気がするのよね。」

「8位の横澤勇氣くん(盛岡市立高校)は、新体操界のジョニー・ウィアーと呼ばせて！演技もチャーミングなんだけど、多分、プライベートもチャーミングなんじゃないかと思うのよ。色白でスリムだし、フロア外でちょっと見かけたんだけど、リラックスした手具入れとか持ってて、それがまた似合ってるの。薔薇の冠をかぶっても似合うジョニーに通じるものを感じたわ～。そんなプリティーな横澤くんだけど、2007年の全日本ジュニアでは個人9位。おまけにこの年、横澤くんのいた滝沢村立滝沢南中学が団体が優勝しているから、多分、そのメンバーにも入っていたはず。表現力あるし、リングなんて背面ころがしとかもやってて、ステキだったわ～。かわいくて実力もあるなんて、まさにジョニー・ウィアーよねっ！」

「とりあえず8位までにしておくけど、9位の細羽勇貴くん(岡山県立井原高校)も、2008年の全日本ジュニアでは4位になっている実績のある選手で、とにかく柔軟性がすばらしいの。もぐりだの、甲立ちだの女子顔負けだし。10位の朝留涼太くん(宮崎県立小林工業・小林秀峰)は、2006年、2007年と全日本ジュニアに個人でも出場しているけど、



<撮影:小林隆子> 2010ALL JAPAN

順位はそれほど上ではないのよね。でも、団体ではどちらも6位入賞しているから。高校に入ってから個人でも伸びてきたんだろうね。ちょっと外人っぽい顔立ちで華があるのよね。楽しみだわ〜。」

~~~~めっちゃ熱い報告をどうもありがとう。ジュニア時代の戦績まで網羅してくれて、なんかすごいんだけど。

「いやあ、ちょっと調べ始めたらはまっちゃって。資料がこんなに分厚くなってしまったわよ。とにかく、今の高校生はジュニア時代から活躍していた子が多くて、過去のデータを調べるとかなり興味深いわね。順調に伸びてる子も多いし、ここにきてぐんと伸びてきたって子もいるし。ああ、インターハイが楽しみだ〜」



~~~~インターハイって、今年は沖縄ですけど。行くの？

「多分、行く。」

こんな熱い男子新体操ファンもいるわけです。すごいな、男子新体操！

個人、長くなってしまったので団体はのちほど改めてアップします。Aさん、熱いレポートをどうもありがとうございました。



第25回高校選抜大会個人総合表彰式

左から優勝：斉藤剛大、2位：籠島遼、3位：斉藤良輔、4位：前田優樹・石井侑佑

TBS ドラマ「タンブリング」放送開始記念！ 勝手にタイアップ企画～

男子新体操の魅力を伝えます！

～第25回高校選抜大会レポート（男子団体）～

ついに「タンブリング」の放送が始まりましたね。まあ、いろいろと突っ込みどころはありますが、それでも、制作者サイド、出演者達の新体操に対する愛情はしっかり伝わってくる内容でよかったです。その「新体操への愛」を体現しているのが、瀬戸康史くん演じる中山悠太くんだと思っ

のですが、1回目の放送ですでに彼のせりふには何度も泣かされました。そんな悠太もドラマの中で「いつかは団体で試合に出たい」と言っていましたよね。そう。男子新体操の中でも、団体はやはり特別な意味と魅力をもっているんですよ。

というわけで、前回の個人(多分)好評につき、高校選抜大会団体のレポートを引き続きお送りします。レポーターはAさんですが、個人の記事に対して「私はあんなにミーハーじゃない」との訴えがありましたので、今回はミーハー度低めで。(実際、こっちのほうがAさんの実態には近いです。彼女はミーハーというよりはオタクなので)

「優勝した青森山田高校(青森県)は、例年よりも選手が大型化している印象でした。それだけに、持ち味であるダンス的な動きの美しさ、そのそろい方の見事さに加えて、スケール感もアップしていて、優勝にふさわしい演技だったと思います。

青森山田のような腕や上体をやわらかく動かし、フォーメーションも直線的ではない演技を、私は流線形の演技と呼んでいるのですが、今は、ほかのチームでも増えてきましたが、やはり流線形の演技では、青森山田が一步ぬきん出ているな、と感じました。昨年のインターハイで優勝したときのメンバーがかなり抜けているのに、このレベルを維持できるところに青森山田の底力を感じます。」

「2位の小林工業・秀峰高校(宮崎県)は、かなりのイメージチェンジを見せてくれたと思います。もともと高く高く人を積み上げる組み技では全国随一のチームでしたが、そのパワフルな持ち味だけでなく、今回の演技にはやわらかさが加わっていました。選手の体型も従来はがっちり系でしたが、ぐっとスリムになって、美しさが増していたように思います。女子では定番の甲立ちを6人そろって入れていたり、柔軟性の向上が明確に見られ、パワフル&ビューティフルな全方向型のチームに変身してきていたことに驚きました。1位の青森山田との点差もわずかに0.1。とても見ごたえのある優勝争いでした。」



「3位の神埼清明高校(佐賀県)は、伝統的に徒手能力が高く、動きがシャープで美しいチームですが、そのよさは存分に受け継がれていたと思います。ただ、上位2チームに比べると、今回は若干地味な印象ではありました。個人で選抜大会に出場している選手がいないのを見て、スター選手は不在なのかもしれません。しかし、それだけに一体感のある団体ならではのよさ、は十分にしてくれたので、インターハイでは上位にからんでくることは間違いのないでしょう。」



「4位の盛岡市立高校(岩手県)の演技は強く印象に残りました。曲が戦場のメリークリスマスというのも新鮮でしたし、このところグリーンの衣装のイメージが強かった盛岡がえんじ色の衣装できたのも意外でした。倒立で惜しいミスがあり、点数が下がってしまいましたが、青森山田風の流線形の動きが、しっかり自分達のものになってきていて、おしゃれで洗練された演技になっていたと思います。とてもステキでした。」

「5位は、恵庭南高校(北海道)。地元開催で会場の盛り上がりは最高潮でした。恵庭も従来は男性的でパワフルな演技が持ち味でしたが、今回の演技は今までになくダンスブルなもので、かなりいい感じでした。徒手で若干ばらつきがあり、点数が伸びきれませんでした。タンプリングの高さなどは圧巻でした。恵庭では男子新体操人気はかなりのもので、タクシーの運転手さんからも自慢話を聞かされるほど(笑)。地元で根付いているだけに、続々といいジュニア選手も育ってきているらしく、今後も目が離せないチームだと思います。」

「あとは、順不同になりますが、埼玉栄高校(埼玉県)の演技も斬新で印象的でした。シルク・ドゥ・ソレイユなどでやっている人間同士が組み合わさってバランスをとる技を取り入れていたのには驚きました。水俣高校(熊本県)も、古豪ですが、本来の持ち味であった組み技、飛び技中心のパワフルな演技だけでなく、独特な振り付けで印象に残る演技を見せてくれました。そして、なんとと言っても鹿児島



島実業高校(鹿児島県)です。インターハイにはここ2年出場できていない鹿児島実業ですが、やはり会場では一番人気！今回は故障者含みのメンバーだったようで、万全の演技とは言えず点数も伸びませんでした。サービス精神満点の演技には拍手喝采でした。より完成度の上がった演技でぜひインターハイに出てきてほしいと思いました。

また、今回は岡山県立井原高校(岡山県)が出場していませんでしたが、チームが組めれば確実に上位を狙える力のあるチームですから、ユースチャンピオンシップや、インターハイではぜひ見たいですね。」

~~~~~ありがとうございました。やはり、この語り口のほうがAさんらしいですね(笑)。個人ではキャラクター捏造してしまって申し訳ありませんでした。

「タンブリング」の放送開始でますます注目を集めそうな、男子新体操。まずは5月のユースチャンピオンシップで、より多くの人に「ホンモノの男子新体操」を見てもらいたいものですね。

遠く北海道まで足を運んでの熱いレポートをどうもありがとうございました。



#### TBSドラマ「タンブリング」勝手にタイアップ企画～

#### 男子新体操の魅力を伝えます！ ～臼井優華（岐阜済美高校）～

さて、いよいよこの週末にユースチャンピオンシップが開催されます。昨年はインフルエンザの流行で中止になったこの大会。男子にとっては2回目となります。

1回目(2008年)は、現在、青森大学の小林翔選手が優勝したのですが、2代目のチャンピオンは果たして誰になるのでしょうか？ 興味はつきません。

高校生が中心となるユースチャンピオンシップは、各県のインハイ予選やブロック大会と時期が重なるため、出場することがなかなか難しいため、今大会の男子の出場者は、38名。決して多くはないのですが、その中に注目選手はたくさんいます。試技順を見ながら、当ブログではおなじみの特派員・Aさんと、「ぎゃー、●●君が、●●高校に進学してる～！」「きゃー、この●●君は、■■君の弟さんかしら～」などなど、盛り上がる私達。名前見ているだけで、盛り上がる自分達はちょっとアブナイおばさんだな、と・・・。

ということで、すこしばかり、ユースチャンピオンシップの注目選手をご紹介します。

まずは、昨年の全日本ジュニアチャンピオン・臼井優華選手です。体操協会のブログでも書かれているので、公表してよいのですが、彼はお両親が運営・指導されているNPOぎふ新体操クラブで、新体操をやってきた選手です。

NPOぎふ新体操クラブといえば、女子では全国トップレベルのクラブです。そして、社会人チーム・アルフレッサ日建産業とも近い関係にあります。ある意味、このうえない恵まれた環境で育ったサラブレッド。フィギュアスケートの小塚崇彦選手のような、そんな存在かと思えます。数年前、NPOぎふの新体操公演を見に行ったとき、まだまだひよっこという感じの男子新体操選手たちも出演していましたが、その中で一人だけちょっとおにいさん、だったのがこの臼井選手でした。

それでも、当時はまだ中学生になったばかりでしょうか。女子選手も多い中で育っただけあって、男子としては美しい動きで、やさしそうな、なんとなくほわんとした空気をもった「かわいらしい男の子」でした。

新体操のサラブレッドらしい育ちのよさ、を感じる一方で、食欲さはあまり感じられない。そんな選手





だったように思います。

2007年の全日本ジュニアでは、個人13位という中1としては立派な成績をおさめています、2008年は12位。しかし、2009年3月の発表会で見た臼井選手は、ぐんと大人っぽくなって、「男の子」から「オトコ」に化けた、そんな風に見えました。

やさしそうな顔立ちや雰囲気はそのままですが、力強さも増し、迫力が出てきていました。そして、手具操作に安定感が出てきたように感じられました。NPOぎふといえば、女子選手達はかなり手具操作にたけていて、ミスも少ない。そんな強みをもっていましたが、男子のジュニア選手といえば、全日本ジュニアでも手具落下は珍しくない、臼井選手も「ミスの少ない選手」ではなかったように記憶しています。

なにしろ、男子新体操は、大学生になってからが勝負！ まだまだそんな印象のスポーツです。ましてや、ジュニアとなると、手具操作はまだまでも、

当たり前。臼井選手も、そんな雰囲気があったように思います。

しかし、2009年の全日本ジュニア1種目目のリングで、彼は見事なノーミス演技を見せてくれました。小柄な選手も多いジュニアの試合では、大柄な彼の演技はとても見映えがしました。そして、中学生でありながら、「オトコの色気」のようなものさえ醸し出す、そんな演技でした。数年前に見たときの、「表現する」というにはちょっと照れくさいなあ～みたいな少年の演技からははっきりと変わっていました。

リングでトップの点数をたたきだしたあと、優勝のなかった2種目目・ロープでは、緊張からは中盤ですこしばかりもたつきがありましたが、大崩れせずにまとめ、迫力満点のタンプリングも見せつけてくれました。文句なしの優勝、だったと思います。前年度の12位からのジャンプアップは、彼の強い気持ちのなせる業だったのではないのでしょうか。

「親が指導者」「二世選手」に対しては、さまざまな



思いがあります。普通の選手達以上のプレッシャーがあるだろうことを思うと、気の毒に思うこともあれば、「やっぱり恵まれているのよね」と言いたくなってしまふこともあります。

しかし、小塚崇彦や織田信成の例を挙げるまでもなく、その育った環境にあまんじず、プレッシャーにつぶされずに育った選手には、だれもが素直に「さすが」というようになる、そういうものです。

臼井優華は、今まさにその道を歩み始めている選手です。他県の強豪校に進学するのではなく、地元岐阜県の高校で、岐阜の男子新体操を盛り上げていく道を選んだのも、「NPOぎふの臼井選手」らしいと思います。強豪校にいけば、団体と個人をかけもちして、仲間と共に成長していくことができるだけにそうではない道ゆえの厳しさはきっとあるでしょう。しかし、彼はきっと、彼なりに大きな成長を見せてくれるに違いありません。

女子がそうであったように、高校でもクラブチームを中心に練習していくという道が男子にもあってもいいはずです。選択肢が広がることで、続けられる選手も増えていく、いろいろな育ち方があっていい。そういう意味でも、臼井選手のこれからの活躍には期待したいです。



<撮影:榊原嘉徳 ※撮影時の所属はNPOぎふ新体操クラブ>

## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～平野泰新（青森山田高校）～

平野泰新選手は、昨年まで愛知県の半田市立半田中学校の中学生でした。半田中といえば、男子新体操の名門校。先日、このブログでも取り上げた小林翔選手(青森大学)も半田中から青森山田高校に進み、大きな花を咲かせていますが、なんと平野選手もこの春、青森山田高校へ進学していました(ユースの試技順を見て、私は初めて知りました！)。この平野選手、昨年の全日本ジュニアでは臼井選手に次いで2位。2008年の10位から大きく順位を上げたのでした。

2009年の全日本ジュニアでの私のメモ。平野選手のロープの演技のところに、「体がよく伸びていい。」そして、「イケメ



ン？」(苦笑)。観客席の高さからだとお顔まではよく見えなかったようで、でも、動きの美しさ、ポーズのカッコよさもあって、イケメン君に見えたのでしょう。体も顔を含めて、とにかく「カッコいい雰囲気」のある選手、という印象だったのです。

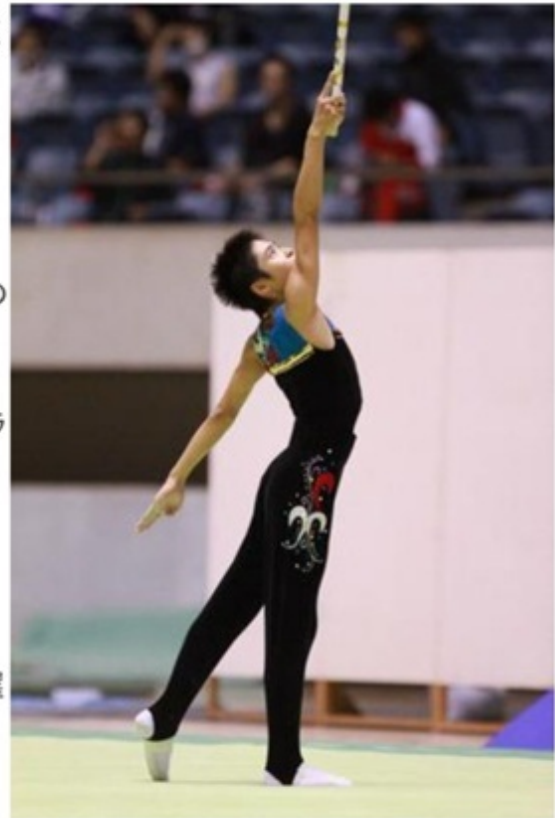
そして、同じ2009年のオールジャパン。このときの私のメモには、平野選手のクラブの演技に☆が3つ踊っていました。そして「衣装が斬新！（写真が残っていません。どんな衣装だったのでしょうか…）シンドラの一のリスト！ びっくりするほどの表現力！ 名作！」と書いてありました。得点を確認してみたところ、8.500。中学生としては立派な得点ですが、すば抜けて高い点数ではありませんでした。

それでも。

春日選手や木村選手など、大学生のすばらしい選手達に混じってのオールジャパンで、この平野選手のクラブの演技は、私にはかなり印象深いものだったようです。それも、技術以上に「表現力」が際立っていた、そんな平野選手が、あの青森山田高校で、果たしてどんな成長を見せてくれるのか。楽しみでなりません。

明日からのユースチャンピオンシップにも、彼の名前がありました。昨年のオールジャパン以来の、高校生になった平野選手の演技がもうじき見られると思うと、ほんとに楽しみです。

<撮影：榊原嘉徳 ※撮影時の所属は半田市立半田中学校>



## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～五十川航汰（NPOぎふ新体操クラブ）～

いよいよユースチャンピオンシップが開幕しましたが、初日の昨日は、男子の競技はありませんでした。

女子の個人予選はすでに熱い闘いが始まっていますが、NPOぎふ新体操クラブの女子選手の演技のときに、「ファイトー！」と声をかけている男の子達は、おそらく明日から出場するNPOぎふの男子選手達でしょう。

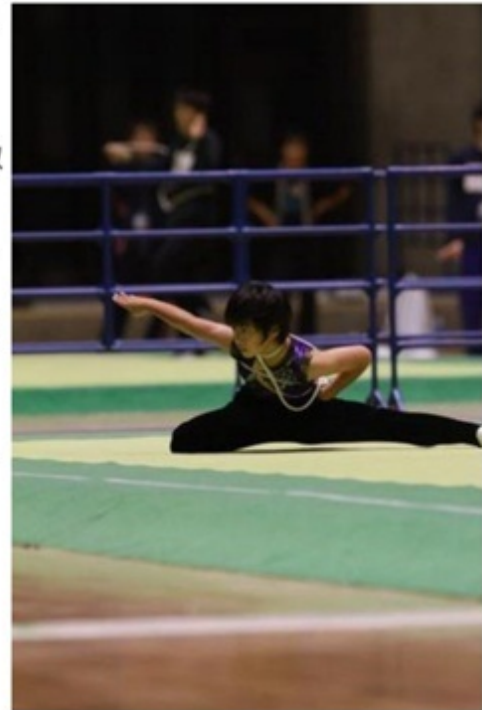
その中に、「なんかすごくカッコいい子がいる」とちょっと観客席で話題になっていたのも、ご紹介しちゃいましょう(笑)。

NPOぎふのイケメン選手といえば・・・おそらく彼ではないでしょうか。五十川航汰くん！ いや、五十川航汰選手！

お顔がかっこいいだけでなく、とても動きがきれいで、叙情的な演技をする選手です。まだ中学生。しかし、2009年全日本ジュニアでは見事3位に入賞して、オールジャパンにも出場した選手です。今年は、もしかしたら、先輩である臼井優華選手に続いての全日本ジュニア制覇も夢ではないかも？ な五十川選手。

ユースチャンピオンシップでもぜひ注目してほしい選手です。

<撮影:榊原嘉徳>



## 男子新体操の魅力を伝えます！

### ～第1回男子新体操団体選手権大会レポート①～

今日の「タンブリング」見ましたか？ いやっ、なかなかスポーツドラマらしくなってきましたね。烏森高校の演技も、かなり上達ぶりが見られて、素直に感動できました。来週からは新しい演技を作るそうなので、ますます楽しみです。あ～、1週間待ち遠しいなあ。

で。

こちらはドラマではなく、リアルのお話です。

今日は、ユースチャンピオンシップと同時に、「第1回男子新体操団体選手権大会」が行われました。

男子新体操と言えば、やっぱり団体！ あの個人主義者だった火野くんさえ、団体演技を終えたあとには、とても爽やかな顔をしていました。それだけの魅力が男子の団体にはあるんですよ。

今回の参加は11チーム！ 決して多くはありませんが、十分、楽しむことができました。写真がまだ間に合わないの、とり急ぎ、レポートのみアップしておきたいと思います。

第1位は、やっぱり青森山田高校！

3月の高校選抜大会と同じ演技だったようですが、一言で言えば、とても盛りだくさんな作品だったように感じました。音楽も序盤は、かっこいいタイプの曲でちょっと無機質な印象でしたが、中盤からはいつもの山田らしい美しい旋律もあり、またかっこいい感じに変わるという、音楽を聴いてい



るだけでも「山あり谷あり」という感じなのです。曲調が変われば当然動き方も変わるので、たたみかけるように、変化のある今回の演技は、また挑戦的でした。

今年の山田のメンバーは背が高く、大型なのでタンブリングの見映えはかなりいいうえに、もちろん、身体能力も高いので、3バックをやっても、交差をやっても迫力満点！

ただし、今大会での演技は、同調性などは今ひとつ。いいときの青森山田高校のあの「ぞくつ」とするほどのそろい方、音との一致などには、ん？ というところも見られたように思います。いや、正直、この演技を初めて見た私には十分すばらしい演技に見えましたが、隣で見ていた特派員・Aさんは、「ん～、今ひとつだな。本人たちも先生も納得できてない顔してる」と一言。「選抜大会のときは、もっとすごかったのよ。この大会であのときの演技が見られなくて残念だったわ。」と、渋いコメント。そうなんだ・・・。初めて見たら、それなりに感動できたけど・・・。

しかし、実際のところ、優勝はしたものの、Aさんの指摘は正しかったようで、競技後に青森山田の荒川先生にお会いしたとき、先生は苦笑いしながら「いや～今日はすみませんでした～、いいの見せられなくて」と言われました。やはり、そうだったのか。おそるべし、Aさん！

もちろん、大きなミスがあったわけではないんですよ。でも、やはり隅から隅まで神経の行き届いた、いつもの山田の演技、とはいかなかったようです。

男子団体選手権は、ユースの個人予選が終わってから行われたので、競技が始まるころには、男子側の観客席はほぼ満席になっていました。せつかくこれだけの観客が集まったのだから、やはり山田の最高の演技を見てもらうことができればよかったなあ、とそれはちょっと悔やまれますが。(きっと先生や選手達も悔しかったでしょう)それでも、男子新体操の魅力は十分伝えられたのではないかと思います。青森山田の演技も、それからほかのチームの演技も、ベストではない部分はあったにせよ、ステキでしたから。

今回の青森山田高校の演技で、もっとも印象に残った新技(?)は、「ウォーキング」(笑)。いやあ、ほんとにすごいタンブリングをあれだけやっていて、相



変わらずため息の出るようなダンスも見せていて、それでも一番ハッとしたのは、選手達がそろって何歩か歩いた、その部分でした。歩くだけで、「うわあ！」と思わせるってほんとにすごいです。いったいどうすごいのかわかりにくいと思いますが、ほんとに。山田の演技は「選手が歩いています」！DVDなどで見る機会のある方は、ぜひそこに注目してください。

さて。いよいよ明日は、男女とも個人の決勝です。

個人では、このブログでも取り上げた、臼井優華選手が1位通過。さらに平野泰新選手も、独特な世界観のある演技を見せてくれました。クラブでは、あの「シンドラーのリスト」を踊ってくれて、あのとき、私がどんな演技に感動したのか思い出させてくれました。やはり、名作の香りのするすばらしい演技でしたよ。

頑張って観戦・取材してきます。

<撮影:小林隆子>

## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～ユースチャンピオンシップレポート①～

2日間にわたる熱戦が終わりました。2年ぶりに行われたユースチャンピオンシップ、男子個人総合はエントリー39名(棄権2名)と決して多くはなかったのですが、予想以上にハイレベルな演技の応酬でかなり盛り上がりました。

今年から中2～高3までがエントリーできるようになった「ユースチャンピオンシップ」なので、体の大きさにはかなり差があります。小さい子たちは小学生か？とも見えるし、大学生にも見える堂々たる体つきの子もいました。

まさに体も技術も成長期、といったユース世代の演技は、それぞれのよさがあるなあ、と感じました。

さて。ユースチャンピオンシップ、2代目の男子チャンピオンに輝いたのは…つい先日、このブログでも紹介した臼井優華選手(岐阜済美高校)でした。昨年の





全日本チャンピオンではありますが、まだ高校1年生です。健闘を期待はしていましたが、正直、まさかここまで進化を見せているとは！ 嬉しい驚きでした。

1種目目のスティック。私のメモには「手具使いがうまい」「大きさが感じられる」と書いてあります。2種目目のクラブ。「いや～、うまいわ～」と書いてあります。メモにはその程度しか書いてありませんが、前半2種目終わった時点で、カメラマン・小林さんとの間で、臼井選手は高騰していました。高校1年生にして、これだけの技術・安定感・そしてそこはかとないオトコの色気を感じさせてくれるとは！

たしかに昨年の全日本ジュニアチャンピオンではあるけれど、優勝したあの試合でさえけっこうドキドキして見守っていた記憶があるのですが、今大会の演技はまったくあぶなげありませんでした。タンブリングにしても、手具操作にしても、かなり難しいことも入っていたと思います。それでも、ミスしそうに思えない。そんな演技を初日の2種目では見せてくれたのです。

しかし、初日の2種目はインターハイ種目ですが、決勝2種目は、高校生にとっては目先に試合がない種目です。まだ高校生になったばかりの臼井選手が果たして、後半2種目もまとめることができるのだろうか？ 決勝はそんな不安も抱きつつ、見ていました。

が、3種目目・ロープ。「うまい。迫力がある。大学生のような演技。ひねりや、宙返りしながらのロープ操作も揺るぎない」私のメモにはそう書いてあります。予選種目でのあの安定感は、ホンモノだったのだな、とこのロープの演技を見たときに思いました。最終種目・リング。リングではミスをする選手も多かったのですが、臼井選手のリング操作には迷いがありませんでした。最初の連続タンブリングでのひねり宙返りの滞空時間の長いこと。もう、おそれいりました！ としか言葉がありません。終わってみれば、4種目すべてで1位となり、完全優勝を成し遂げたのです。



半年前にジュニアチャンピオンになったとき、半年後にここまでたくましく成長しているとは想像できませんでした。臼井優華選手は、今、おそるべきスピードで進化を遂げている、のです。

「文句なし」の優勝を決めたあと、臼井選手に少しお話を聞くことができました。大変失礼な話ですが、本人に率直に聞いてみました。「なぜ、そんなに急にうまくなったの？ 半年前とはまったく違うじゃない」と。臼井選手の答えは「高校生になって硬さがとれてきた」でした。「硬さ」というのは、心のほう？ それとも体？ その問いに彼は「両方」と答えてくれました。そして、自分自身の演技について「強さはかなり出せているかな、と思うので、あと

はもっとやわらかさを出したい。そのためには柔軟性をもっとつけたい。」と語ってくれました。高校1年生としては、十分に巧みだったように見えた手具操作も「まだまだ。もっと器用に手具を扱えるようになりたい。」と意欲を見せてくれました。今の目標は、「インターハイ優勝」「オールジャパンでもいい成績をとれるようになりたい」！ その言葉は迷いなく出てきました。

最後に、「ご両親が指導者ということでプレッシャーを感じたり、いやな思いをしたことはないですか？」と聞いてみると、「ありません」即答でした。

「これからも気にしません。家庭は家庭。新体操は新体操ですから。」それが彼の答えでした。自分の演技をよりよいものにするために、いろいろな演技をDVDで見たりして、研究しているという臼井選手。力強さの中にも、せつなさや艶やかささえ感じさせる表現力が一気に開花したのも、彼のその研究の賜物なのでしょう。最高のスタートを切った臼井選手の高校時代、これからが本当に楽しみです。

さて、今回のユースチャンピオンシップについては、これからもこのブログで続けてレポートしていく予定です。上位選手はもちろん、順位には関係なく、「これは！」という選手を紹介していくつもりですが、その予告編として、今大会で見つけた大注目株を紹介しておきましょう。

個人総合成績では、16位の**永井直也選手(半田スポーツクラブ)**です。今までには聞いたことのない名前、見たことのない選手でしたが、私のメモには最初のスティックの演技から☆印がたくさんつけてありました。いわく「ダンサーぽくて美しい」と大きな字で書いています。2種目のクラブでは落下がありました。それでも、男子では珍しい上体の蛇動を入れていたり、とにかく上体をそらしたときの姿勢が美しいのです。そして、女子のオールタイトと見まごうような、黒が基調で片袖がブルーという斬新な衣装(昨年、平野泰新選手が着ていた「斬新な衣装」はたしかこれでした!)なのですが、それさえもよく似合う、そんな雰囲気をもっていたのです。

ロープの演技では、最初のポーズから動き始めてすぐに、片手をすうっと宙に向けて伸ばすのですが、もうその手の動きだけで空気が変わる。そんな魅力的な動きをする選手なのです。腕から指先の美しさ、脚のラインもまっすぐでタンプリング中の乱れも少なく、パレエ的な動きも見事にさまになっていました。キメポーズで、きつと前を見たときの表情もとてもいいのですが、演技中に伏し目がちにな



る場面もあり、その伏し目さえも、彼のもつ独特の雰囲気を実際立たせていました。

男子新体操はカッコいい。

だけど、永井選手の演技は、「男子新体操らしさ」とはすこし違った魅力にあふれていました。中学に入ってから新体操を始めたという彼は、全国規模の大きな大会に出たのは今回が初めてだったそうです。中3の今年は、全日本ジュニアを目指しているとのこと。

今年のおわりに全日本ジュニアで彼の演技をぜひ見たいと思いました。いや、私だけでなく、より多くの人に見てもらいたいです。



<撮影:小林隆子>

## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～ユースチャンピオンシップレポート②～

なんだか興奮冷めやらぬので、さっそくですが、上位選手の顔ぶれだけご紹介しておきます。画像が用意でき次第、それぞれの選手の演技についての詳しいレポートをしたいと思いますが、まずはご紹介のみで。この上位6名の選手は、今年度の全日本選手権大会への出場権を得ました。

### 6位: 蛭川翔太(群馬県立前橋工業高校)

タンブリング中の空中姿勢の美しさが目をひいた選手。タンブリング中でも膝が開かずまっすぐで、つま先もよく伸びていた。最終種目・リングでの「戦場のメリークリスマス」では、ほかの種目に比べて軽快な動きも目立ち、かなりの好印象だった。





#### 5位:平野泰新(青森山田高校)

高校1年生ですが、いきなりの5位！ 1位の臼井選手といい、この学年は強い。まさに空気をつかむような美しい動きにさらに磨きがかかってきた印象。クラブではあの名作「シンドラーのリスト」を見せてくれたが、やはり、感動！ できる演技だった。

#### 4位:谷 俊太郎(青森山田高校)

正統派の男らしくダイナミックな演技を見せる選手。伸身でひねるときの姿勢がとても美しい。雄大さとスピード感のある演技は、昨年全日本チャンピオン・春日選手を彷彿とさせる。



#### 3位:前田優樹(青森山田高校)

リング、ロープなどで見せた意外性のある手具操作が印象的。手具をキャッチするときのやわらかさといい、手具扱いの巧さが光った。「踊っている」感のある動き、表情もすばらしい。

## 2位: 齊藤良輔(埼玉栄高校)

大柄で「ザ・マッスル」という感じの鍛え上げられた身体から繰り出すタンブリングの迫力は超・高校級。長身をさらに上に上にと引っ張り上げるような伸びの姿勢は、ため息が出るほど美しい。



## 1位: 臼井優華(岐阜済美高校)

この半年で急成長を見せた選手。今大会レベルの演技ができれば、大学生の中に入っても見劣りしないとの評判も高い。手具操作や動きにもほかの人にはない個性的なものも見せてくれる選手だ。

<撮影: 小林隆子>

男子新体操の魅力を伝えます！  
～ユースチャンピオンシップレポート③～

ここ数日、アクセス数があがっているようで、とてもうれしいです。少しでも注目されているうちになるべくたくさんの選手を紹介したいと思います。今日は7位から！

7位: 鈴木 仁(青森山田高校)

なめらかな腕から指先の動きがとても美しい選手。ぐっと迫ってくる目力があり、立って、正面を向いているだけでも伝わってくるものがある。大人びた雰囲気演技が魅力的だ。



8位: 籠島 遼  
(青森山田高校)

今大会ではリングで大場外があり、順位をおとししてしまったが、本来はもっと上位をうかがえる力のある選手。スピード感のある手具操作と、つま先やひざまで意識の届いた脚のラインが美しく、伸身の姿勢がとても美しい。

9位: 川西伸也  
(香川県立坂出工業高校)

リングをうまく使ったキメポーズがかっこいい！空中で独特な姿勢を見せたり、もぐり回転を入れていたり、宙返り中に手具の持ち替えをしたり、独創的な演技が印象に残った。



## 10位:細羽勇貴(岡山県立井原高校)

両腕を広げた形に、とても雰囲気がある。運動量が多いが、柔軟性があるので、常に動きが美しく演技の流れがいい。リングのラストでの落ちてくるリングに片足をを入れるキャッチはインパクトがあった。

<撮影:小林隆子>



## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～ユースチャンピオンシップレポート④～

私は「男子新体操の魅力」をお伝えしているつもりなのですが、一部では「イケメン特集かっ？」などという声もちらほら。いえいえ。そういう趣味に走っているわけではなく～、純粋に「男子新体操はすごいよ！」と伝えているわけでした。まあでも、イケメン君が多いのは、まあ、仕方ないでしょ。男の子とはいえ、「見られてなんぼ」の競技ですからね。日頃はどんなにシャイだとしてもフロアマットに立てば別人！ にならなくてははいけないわけで。「おれはイケメンだ」くらいに思い込まなきゃ、やってらんない！ と思います。

なかには、演技中の決めポーズでは「おれイケメン！」な顔をするのに、その他の部分では素に戻ってしまう選手もけっこういて(笑)。まあ、そのギャップもなかなか味わい深いわけで。

私としては、「立っているだけで絵になる」みたいな生まれつきのイケメン君もいろいろ、「頑張っ



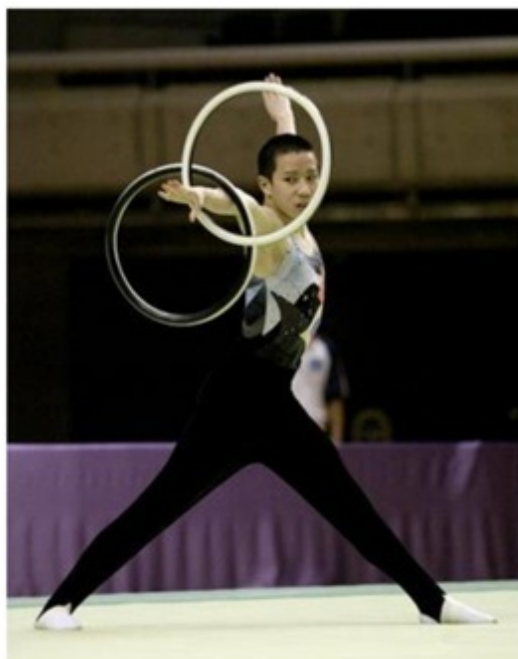
てイケメンを演じてみましたっ！」というカッコよさも好きですね。  
なんの話なんだか。では、「イケメン特集」ではなくて、「ユースチャンピオンシップ特集」のつづきいきます。個人11～15位です。

## 11位:福士俊輔(弘前実業高校)

手具操作がスピーディーで気持ちのいい演技をする選手だが、今大会ではその手具操作でミスが出たのが惜しかった。とても大人びた雰囲気があり、世界観を感じさせる演技を見せてくれた。指先まで神経のいき届いた動きが美しく、かつ男性的。

**12位:原田幹啓**  
(岡山県立井原高校)

ピアノ曲など静かな音楽がよく似合う、美しく隙のない動きをする選手。表現力もあり、音楽と共に胸に染み入るような演技を見せる。柔軟性があり、もぐり回転やローリングなども難なくできる。芸術性の高い演技をこれからも見せてくれそうだ。



**13位:宮前 凌**(北海道恵庭南高校)

スピード感とやわらかさを兼ね備えた動きがとても気持ちよい。スリムな体で軽々と跳び上がるタンブリングの高さには目を見張るものがある。今回は演技の完成度がまだ上がっておらず、ミスも出ていたがミスが少なくなれば上位もうかがえる力が感じられた。

**14位:齊藤 嵩**(埼玉栄高校)

きびきびとした締め味の利いた動きで、とても男らしい印象の演技。小柄だがタンブリングも高く、力強さが感じられる。ロープの「アレグレット」では、その運動量の多さに驚かされた。





## 15位:服部 心 (青森山田高校)

腕の動きがとても美しく、青森山田らしい動きが似合いそうな選手。今回は手具落下などもあったが、ロープ操作のスピード感はずばらしかった。もっと胸を張って堂々とすれば、かっこよさがぐんとアップしそうな選手だ。

<撮影:小林隆子>



## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～かっこカワイイ！ 新体操ボーイズ！特集～

ユースチャンピオンシップには、中学生の選手も何名か出場していました。高校生に交じると、やはりパワーや迫力ではかなわない感はありましたが、今どきのジュニアはやはり徒手能力が高く、手具操作もいっぱしでした。

そして、なによりも…イケメンそろい！ やはり「見せるスポーツ」だからなのか、ほんとにかっこいい男の子達がそろっていました。今回はそんな中学生達＝新体操ボーイズの特集ですが、あんまり人気が出ちゃってジャニーズやジュノンボーイに転身されたら困るなあ～

せっかくここまでの技術を身につけたんだもの。せめて高校生までは新体操続けてほしいなあ、と切に願いつつ、気前よく紹介しちゃいます。

## 渡辺祥成(NPO ぎふ新体操クラブ)

ややぎこちなさは残るが、その分、とてもいねいに手具を扱い、落下を防いでいるところが立派！でもあり、秘めた闘志が感じられる。ぐっと正面を見すえたときの強い目線がとても魅力的だ。



### 山本悠平(NPO ぎふ新体操クラブ)

スリムな肢体から繰り出すタンブリングは、空気のように軽い！ まだ粗削りなところはあるが、センスのよさを感じさせる選手。



### 佐久本歩夢(君津新体操クラブ)

音をうまくとらえた動きが気持ちよく、キメポーズがちょっと独特で、目を引いた。手具扱いも巧みで、伸びた姿勢がとても自然で非常にのびしろが感じられる選手。



### 五十川 航汰(NPO ぎふ新体操クラブ)

つま先まで神経のいき届いた身体のラインがとても美しい。手具操作もスムーズで止まるところの少ない流れのある演技を見せる。憂いを含んだ目線が中学生ながら色気すら感じさせる。



### 永井 直也(半田スポーツクラブ)

立っているだけでも華がある。空中姿勢がこれほどまっすぐ伸びているのは驚き！ まさにフロアに出てきただけで空気を変える力を持った選手。

<撮影:小林隆子>



## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～第1回男子新体操団体選手権②～

さて。個人選手の紹介がひと段落しましたので、続きまして団体です。ユースチャンピオンシップと同時に開催された「第1回男子新体操団体選手権」で、青森山田高校に次いで2位になった2校です。

2校とも非常にパワフルな演技で、それぞれに個性的でした。

### まずは、埼玉栄高校。

高校選抜大会のときから、一風変わった斬新な演技だったと評判が高かった埼玉栄の団体ですが、たしかに……。曲も振り付けも、独特！どこかで見たような、聞いたような、ではない独創的なものでした。いわゆる側宙を多用していて、それが男子新体操では定番のバック転や後方、前方の宙返りとはひと味違う、スリリングな印象をうまく演出していたように思います。女子で言う「スケール」のようなバランスや、組み体操のように人と人が組み合わさった中を人がジャンプでく



ぐりぬけるなど、「ハツ」とさせるものが多かったです。今回は少しずつぐらつきなどがあり、減点もあったようですが、完成度が上がってくるとちょっと怖い存在になりそうです。

### 次に、前橋工業高校。

こちらは「たくましさ」を感じさせるタンブリングが見事でした。もちろん、そろっても動けるのですが、タンブリングは「さみだれ式」になっているところも多く、一人一人のタンブリング力が高いだけに、見どころになっていました。演技序盤の動きが妖しく、かっこよく、いきなり



世界に引き込まれる感じでした。たくましい演技でありながら、描き出している世界は非常に美しく、「魅せる作品」になっていたと思います。個人でも活躍していた蛭川くんの姿勢の美しさは、団体の中でも目立っていました。

明日から、団体をもう何チームかご紹介します。注目のボーイズ団体(団体には小学生も出場しています)も登場しますから、お楽しみに！



<撮影:小林隆子>

**男子新体操の魅力を伝えます！**  
～第1回男子新体操団体選手権③～

まだまだ続きます！ 団体です。

## 清風高校

男子団体の象徴ともいえる「3連バック+スワン」がとてもよくそろっていた。タンプリングのスピードもあり、迫力と一体感がすばらしい。ラスト近くで見せた開脚とびはインパクトがあり、「男子新体操らしい」よさがとても感じられる演技だった。



## 光明学園相模原高校

つい先日、取材でお邪魔した光明学園。そのときに先生にうかがったお話では、「今の構成がこなせるようになったらもうすこし難度をあげたい」とのことだったが、たしかに非常にノーマルな演技内容だった。それだけに、選手達がていねいに一生懸命演じていることが伝わってきて、好感がもてた。



## 静岡県立稲取高校

鹿倒立での失敗が残念。演技後半は曲のスピードがあがり、音楽の盛り上がりに伴って交差を繰り返す、盛り上がる構成になっていた。カノンになった手の動きなど、ラストポーズへの流れがとてもよく工夫されていた。



## 静岡県立島田工業高校

試技順1番で登場し、かなり緊張感の見える演技だったが、正統派の美しい団体演技だった。難度ではいくつかあぶないところもあったが、振り付けはかなりよい印象だった。ラストの動きがとてもカッコいい。



## 福井県立科学技術高校

柔軟性のある選手が多いのか、左右開脚が非常にきれい。派手さはないが、ノーマルな演技をていねいに演じていた。高さのあるタンブリングは迫力十分。



<撮影:小林隆子>

## 男子新体操の魅力を伝えます！ ～第1回男子新体操団体選手権④～

さて、いよいよ「ユース&団体選手権」のラストです。

カッコよすぎるボーイズ団体です。

みんないっぱいにかっこいいけど、なかには小学生もいるんですよね～、末恐ろしい～、末頼もしい～

## 華舞翔新体操倶楽部

おそらく小学生で組んでいるチーム(全員ではないかもしれませんが)。体がまだ細くて小さい分、迫力では高校生に及ばないが、動きは非常に美しい。さらに、柔軟性には目をみはるものがあり、後方ブリッジから連続しての鹿倒立には驚かされた。衣装がとても洗練されていてスリムな体をよりスタイルよく見せている。



## 君津新体操クラブ

鹿倒立やタンブリングなどがまだキビシイ選手も加えての6人編成。おそらく少ない人数で頑張っているのだろう、ということが感じられた。元気な男の子らしい、まさにボーイズ！ のかっこいい演技だった。





## NPOぎふ新体操クラブ

小柄な選手が多いが、その分、スピード感があり、タンブリングは高校生に交じっても見劣りしない。動きも非常に美しく、ジュニアとしてはかなりレベルの高い演技を見せた。現在、主流になりつつある、「動きで魅せる男子新体操」の流れをしっかりと組み込んだ演技だった。



さて。明日からは、再び大学生に戻って、男子新体操の魅力を伝え続けたいと思います。  
ドラマ「タンプリング」も、盛り上がってきましたよね。先週末の第8話は新体操のシーンもたくさんあつて、かなり、興奮しました。

ちなみに、あのドラマの中で「柏木スペシャル」としてやっていた技は、埼玉インハイ(2008年)のときに、恵庭南高校がやっていた技のようです。(←特派員・Aさんからのご指摘)たしかに、見たことあるぞ〜と思ったのですが、恵庭でしたか〜。

柏木先生の集めた資料の中には「からくり」という本もありましたよ。けっこうスタッフの方たちが、男子新体操のこと研究されているんだなあ、と感動しました。

来週には、烏森高校の新しい演技が見られるんでしょうかね。楽しみです。

<撮影:小林隆子>

## ～男子新体操聖地巡礼/盛岡市立高校①～

塾に勤めている私にとっては、「夏休み＝夏期講習」。  
例年とても忙しいのですが、今年は7月20～25日で思いがけず連休がとれてしまいました。  
でっ、思ったのです。

### 「そうだ、東北に行こう！」

折りしも7月20日からは「青春18切符」も使えるとのこと。  
これはもう行くしかないでしょ！  
家族はだれも止めませんでした。  
おそらく、止めてもムダだと思っているのでしょう。

というわけで、7月20日夕方に、東京を旅立ち、各駅停車を乗り継いで福島県・郡山へ。郡山は駅前にネットカフェのあるありがたい駅なので、ここで1泊目。  
そして、21日の朝から東北本線でひたすら北上し、盛岡へ。盛岡駅前からバスに乗り、「盛岡市立高校入口」というバス停で降りたところ、そこに広がっていたのは・・・果てしない田園風景。学校の建物は見えているのだけれど、そこに至る道は、「ザ・あぜ道」！九州育ちの私にとってはそれほど珍しい風景ではないけれど、あぜ道を歩くのって、何十年かぶりのような。

そして、たどりついたのが。  
男子新体操の強い東北でも、「強豪」の誉れ高い、盛岡市立高校でした。今年は、春の東北大会で青森山田高校を抑えて優勝を果たし、今年のインターハイではおおいに活躍が期待されている、その盛岡市立高校です。



まあ、学校の周りのすばらしい田園風景といい、新体操部以外の部活もとても盛んなこと、広々としたグラウンドなど、うらやましくなるような環境の学校でした。

この環境で、たくさんの学校の仲間達と一緒に、新体操に打ち込んでいる男の子達が「盛岡市立高校男子新体操部」なんだな、と。まだ、新体操部の面々と顔を合わせる前から、ぐっときてしまいました。（私が高校時代を過ごした九州の学校を思い出してしまいました）



さて。

その盛岡市立高校ですが、部員数 16 名。男子新体操部としては大所帯なほうでしょう。体育館はすごく活気に満ちていました。

いや、正確に言えば、いきなり活気に満ちていたわけではありません。私が体育館に足を踏み入れたときには、それぞれにアップを始めていたのですが、「なんだか楽しそう」というのが、正直な第一印象でした。高校の部活といえど、あまり先輩・後輩のびりびりした関係は感じられず、とても仲のよさそうな、楽しそうな「仲間関係」に見えたのです。

練習開始のあいさつ前のアップやストレッチは、意外なほどのリラックスムードの中で行われていました。遊び感覚もいっぱい、お互いにストレッチを手伝いながら、「わあ、やめてくれ〜」なんてふざけ合う姿も見受けられました。

全国優勝も狙おうというチームにしては、なんだかのどかな練習前の風景にちょっと驚いてしまったのですが、似たような驚きは、この先もあちこちで経験することになりました。



この日は、ちょうど地元のテレビ局が取材に入っていました。

じつは今年の盛岡市立高校チームの高3は、2008 年度の高校選抜大会（2009.3.28.岡山県開催）で優勝したときのメンバーなのです。それだけに地元の期待も大きいのでしょう。

しかし、じつはこのチームの道のりは、そう平坦なものではありませんでした。選抜大会で優勝したため、その年のインターハイでも「限りなく優勝に近い！」と期待されながら、2009年度インターハイ(2009.8.7.和歌山県開催)では、まさかの10位！このときは、指導者も選手達もかなり落ち込んだと言います。「期待して、応援してくれている人がたくさんいるのに、これでは帰れない」…そんな気持ちにもなると、いつも明るい名物指導者・野呂先生も、そのときのことを「大きな挫折感を味わった」と語ります。



しかし、盛岡市立高校は、その挫折をしっかりと糧にしました。2009年度高校選抜大会(2010.3.29.北海道開催)では、4位まで順位をあげ、この選抜大会で優勝している青森山田高校を、春の東北大会でついに破ったのです。



昨年のインターハイが底だったとして、1年間でここまでチーム力をあげてきた盛岡市立高校。その陰には、どれほどハードな練習があるのだろうか？と、私も興味津々だったのですが、とりあえず、本格的な練習が始まる前の雰囲気は、ちょっと拍子抜けするくらいののんびりムードだったのです。

## ～男子新体操聖地巡礼/盛岡市立高校②～

この日の盛岡市立高校の練習開始は、16時。しかし、はじめの25分間はリラックスムードのなかでのアップやストレッチ。16時25分になってついに一斉練習が始まりました。

度肝を抜かれたのは、いきなりの「全員鹿倒立」！それも10秒！すごいです。10人以上で見事に揃った鹿倒立は、迫力十分。そして、美しい～。10秒はかなり長いですが、ほとんどの子が止まっています。この地力はすばらしい。

16時35分になって、いわゆる「分習(女子で言うフリーズ練)」に入りました。しかし、この練習でもタンブリングは抜いていて、いわゆる徒手、動きの練習のみです。細かい修正を入れながらも、この日の練習を見ている限りでは、同じところは2回以上はめっ



たにやり直しません。やる⇒修正点を伝える⇒やり直し、次に移る。このくり返しです。この日の練習は3時間足らずと聞いていましたから、それゆえかもしれません。翌週に合宿を控えていたため、詰めた練習はそこでやるという計画があったからかもしれません。それにしても、「わりあいアッサリした練習」、そんな印象でした。

16時55分になると、インターハイに個人で出場する横澤勇氣くん(高3)の通し練習が始まりました。が、これも、タンプリングはほぼ抜いた状態の軽く流すような演技です。それもたったの5分間。横澤くんは、団体メンバーを兼ねていないので、フロアの脇でずっと自分の練習をしてはいましたが、それにしてもマットでの練習時間がこんなに少なくて大丈夫なんだろうか、と思うほどです。



17時40分から、「通し練習」に入りましたが、これもハーフ。前半、後半に分けての通しでした。そのあとに全通しをやるのか？と思いきや、「今日の練習はここまで」。動いている間はもちろん、一生懸命やっていますし、先生の指導も熱い。だけど、決して罵声が飛び交うわけでもなく、意識がとびそうになるまでぶっ続けで通すでもなく、ごくごく静かな、穏やかな練習であったことは軽い驚きでした。インターハイまで3週間を切っているこの時期に、これでいいのか？と心配になってしまったほどでした。

この日は、テレビ局の取材もあったため、通し練習が終わってから、選手へのインタビューとりもあり、そういう事情ゆえか、思った以上に練習時間も短かったのかもしれませんが…。



しかし、その後、野呂先生のお話をうかがうことができ、そんな私の心配は、杞憂だったと思い知りました。今年の盛岡市立高校は、インターハイ直前になってがつがつ詰め込まなければいけないようなチームではない。暑い沖縄でのインターハイ本番を、いかにいい状態で迎えさせるか、野呂先生の采配はすでにそこだけを考えているのです。

「目指せ、優勝！」と120%の力で突っ走る。それは、今年のチームに合うやり方ではないし、そうする必要もないということを、百戦錬磨の野呂和希は知っていたのです。



### ～男子新体操聖地巡礼/盛岡市立高校③～

※アクセス数が昨日から激増…。男子新体操ファンが見てくれているのなら嬉しいです～。そこで、今回分からずこしオフィシャルな雰囲気文体変えました。急に変わって読みづらかったらすみません。

「今はまだ6～7割の仕上がりです。しかし、来週には合宿も組んでつめた練習をしていく予定なので、今はやりすぎて怪我させないことと、暑さに慣れさせることを重視しています。」と野呂監督。

2009年の3月に選抜大会で優勝しながら、その年のインターハイで10位と惨敗したときも、故障にやられた。野呂監督には、今もその記憶が消えない。現在、高3の遠藤健太は、選抜優勝時の団体メンバーだ。しかし、選抜の直後に骨折し、全治3か月。やっと完治したと思って動き始めたときに再び骨折。結局、高校2年の1年間を棒にふる。

「メンバーのなかでもっともタンプリングが強い」と野呂監督も信頼を寄せる遠藤の1年間の戦線離脱は昨年の盛岡市立高校にとって大きな痛手だったに違いない。せっかく選抜大会で優勝しても、そこからインターハイまでの日々は、遠藤の抜けた穴をどうやって埋めるのか、その修正に時間がとられ、自分達





の演技により磨きをかけるところまで到達できなかった、と野呂監督は、昨年のインターハイを振り返る。

「自分は本来タンブリング人間で、徒手は苦手でした。でも、3年前の青森山田の演技を見てから、男子新体操はこういうダンス的な動きが主流になってくだろうと感じたんです。つまり徒手が重要になってくる、それはわかっていました。去年のインターハイでの演技は、ダンス的な動きをかなり入れ

ていました。が、やはりそれをうまく新体操に融合させるところまではいけず、評価もしてもらえなかった。それが敗因です。ネットでも二番煎じ、などと批判されたりして、あのときはかなり落ち込んで、新体操から離れたいなあ、とまで考えました。」

そう語る野呂監督だが、そこからチームを復活させる力を与えてくれたのは、やはり部員達だったと言う。

「今のメンバーは、ジュニアのときにも全日本ジュニアで優勝した滝沢南中から来ている子ばかりなんです。彼らは、能力も高いうえに、経験値が高い。だから、一度落ち込んだところからどうやったら上がっていけるか、よくわかっているんです。そういう選手達だったから、チームを立て直せたと思います。インターハイは惨敗に終わりましたが、そのときの3年生達も、今、自分達がやりたいと思う演技ができたから、と納得してくれました。去年のその経験があつてこそ、今年は、自分達の強みを生かした戦い方ができていると思っています。」

盛岡市立高校の強み。

それは、「バランスのよさ」ではないかと思う。

試行錯誤しながら取り入れてきたというダンス的要素は、相当サマになってきている。

去年はとり入れすぎて融合できなかったというが、今年は「自分達にできる動き」を厳選して取り入れたというだけあって、照れもなければ、不自然さもない。演技に最先端の味つけを加え、強さとかっこよさを引き立てる、今年のダンス要素はその役割を十二分に果たしている。

さらに、タンブリングは、確実に強い。1年間のブランクから復活した遠藤に加え、「次期エース」と野呂監督が期待を寄せる2年生の三上健太も、ダイナミックでキレのよいタンブリングを見せる。

180 cmを超える長身から繰り出す迫力のあるタンブリングが目を引く播磨秀亮もいる。

そして、170 cm、48 キロというスリムな身体の2年生の小山内康朝が、「盛岡市立のとび道具」として八面六臂の活躍を見せる。小山内の身体を生かした、高さの出る組み技が、今年の演技のアク





セントになっていて、「タンブリングよし、組み技あり、ダンス的にも動ける」というオールマイティーなチームを印象づけることに成功しているのだ。

さらに、中学時代からずっといっしょにやってきているという「あうんの呼吸」の高3が4人。キャプテンの菊地俊洋を中心に、ムードメーカーの國正瑞輝がチームの雰囲気盛り上げ、高2の2人は先輩達との最後のインターハイに懸ける気持ちが強い。そんなチーム状態から伝わってくる一体感。これも盛岡市立高校の大きな武器だ。

これは、認めないことが難しい演技だ。

あとは、本番で最高の実施を見せるだけ。

私の目には、そう映った。



だから。

必要以上につめた練習をしない、野呂監督の姿勢には納得がいった。

「今はもう、必死に練習して作り上げていく段階ではないと思っています。3年かけてここまで来たチームですから。」

野呂監督はそう言った。

「試合では100%の力ではもたないんです。80%くらいでちょうどいい。だけど、その80%の力での演技が、見る人には100%にも120%にも見えなければ勝てません。その力の抜き方や、出し方を覚えさせながら、本番で最高の演技ができるようにコントロールしていくのが、私の仕事だと思っています。」

盛岡市立高校は、一時期トレードマークになっていたグリーンの衣装ではなく、今年の選抜大会からワ



インレッドの衣装に変えた。春の東北大会でも、その衣装で優勝している。  
ワインレッドは、沖縄のイメージで選んだのだそうだ。



「沖縄は暑いぞ、こんなもんじゃないぞ。」  
「沖縄では練習しなくていいくらいに仕上げていかないと～」

35度を記録し、十分に暑かったこの日の体育館に野呂監督の声が響いていた。  
決して、怒鳴るのではなく、部員達にも笑顔のある練習。  
盛岡市立高校は、インターハイ初優勝に向けて、あくまで静かに「いい準備」をしていた。



## ～男子新体操聖地巡礼/盛岡市立高校④～

盛岡市立高校男子新体操部員は16名。  
全員が地元の滝沢南中学から進学してきている。  
滝沢南中学には、男子新体操部があり、全日本ジュニアの常連だ。2007年には全日本ジュニアで優勝もしている。  
日本にいくつもない「男子新体操の強豪中学」で育ってきた彼らは、じつに仲がよい。先輩、後輩の関係もあるにはあるのだろうが、それ以上に長い濃密な時間をともに過ごしてきた「仲間意識」のほうが強いよ



うに見える。

そんな仲のいいチームだが、公式戦のレギュラーメンバーとしてフロアマットにあがれるのは団体では6人だけだ。今年は、横澤勇氣(3年)が個人に専念し、インターハイにも出場するので、インターハイの舞台上で踊れるのは7人、ということになる。あとの9人は、控えの選手であり、選手達をサポートする裏方でもあり、また、盛岡市立高校男子新体操部の次世代を担う貴重な戦力でもある。



私が、盛岡を訪ねた7月22日、すでにインターハイまで1か月を切っていたこの日、レギュラー以外のメンバー(Bチーム)は、どう過ごしていたか。

7月29日に予定されている「新体操演技会」に向けて演技構成を練り、練習に余念なかった。フロアマットを使える時間は限られている。それでも、マットの外で、レギュラーが監督に呼ばれてマットが空いている時間があれば、すかさずマットに上がって、練習していた。



練習時間の中に組み込まれている全員での徒手練習(鹿倒立やバランス)、全員でのタンブリングにはしっかり参加していて、レギュラーにも劣らないだけの力を見せている子もいる。それでも今は「控え選手」。そこに盛岡市立高校の、ひいては滝沢南中学の層の厚さが見える。

レギュラーメンバーでの分習がひと段落したところで、野呂監督がBチームに声をかけた。

「演技会でやる演技を見せろ」

なんでもすこし前まで入っていなかったメンバーも急遽入ることになったとかで、まだ演技構成がかたまっていないところがあるようだったが、とてもBチームには見えないレベルの演技を彼らは見せた。とくに組み技では、かなり高度な技も入れていて、感心させられたのだが、演技を見終わって野呂監督は、「おまえたち、こんな演技をするのか～、おっかね～」と言った。少し苦笑しているように見えた。そして、「でも、やりたいんだよね」とひとりごち、それから、Bチームのメンバーにしっかり向き合ってしまった。

「難しい技をやりたい気持ちもわかるけど、今は、もっと基本的な動きをきちっとやれるところを見せてほしいと先生は思う。」

子ども達は、「はいっ」と気持ちのいい返事をする。

だが、野呂監督自身、「絶対にやってはいけない」と思っているようには見えない。そんな言い方だった。「基本的な動きをきちっと」それがセオリーだろう。そこをないがしろにする選手になっていいとは野呂監督は思っていない。

しかし。

Bチームだからこそ、「こんなこともできる！」と見せたい気持ちもまた、持っていてほしいのだろうと感じた。だから、「おっかない」「基本的なことをやってほしいと、先生は思う」と言いながら、「おっかないこと」に挑戦していることを責めてはいなかった。

挑戦する気持ちをもつ彼らのことを、心の中では頼もしく感じているだろうし、誇りに思っているのだろう。やりたがる気持ちを大切にできる、野呂和希はそんな指導者なのだと思う。



29日の演技会で彼らがどんな演技をしたのかは知らない。

しかし、どんな演技だったとしても、おそらく彼らなりに納得して、取り組んだ演技にはなっていたに違いない。「Bチームでも、これとは盛岡は強いなあ」ときつと思わせる演技だったのではないだろうか。

今年の盛岡市立高校は強い。

だが、それを今年で終わりにしてほしい、という強い意思がこのBチームには見える。

県外から選手を受け入れることができない盛岡市立高校。

滝沢南中学にいたっては、学区外からの生徒も入学できない。

岩手県岩手郡滝沢村というごく狭い地域の中で、男子新体操に出会い、仲間にめぐり合い、熱い指導者に出会った彼らは、新体操が自分達を成長させてくれることを知っているのだと思う。

だから、今、レギュラーであるかどうか、次の試合に自分が出るかどうかだけで、自分の成長を計ったりしないのではないか。今いる場所でベストを尽くすことを知ってる、そんな風に見えたのだ。

おわりの挨拶をしたあとも、彼らは体育館に残っている。ぱらりぱらりと帰っていくが、多くの子がかなりの時間、体育館に残る。いわゆる自主練に励んでいる子もいれば、遊んでいるように見える子もいるが、その遊びはやはり新体操だ。新体操の技をやってみたり、踊ってみたり。そこにはレギュラーとそうではない子の垣根もなく、「新体操大好きな男の子達」の集まりだ。

みんな新体操が好きなんだな。

そんな当たり前のことをとても嬉しく感じた。

野呂監督にも聞いてみた。「新体操好きじゃないけど、進学的手段として新体操できちゃった、みたいな子、いますか？」

野呂監督は、一瞬きょとんとした顔をした。おそらく、何を聞かれているのか、ピンとこなかったのではないだろうか。そして、次の瞬間、「いないですね」ときっぱり答えた。

そんなことなぜ聞かれるのかもわからなかったかもしれない。

それほどに、岩手県の男子新体操は、新体操大好きな子ども達と、「新体操大好きな子どもを育てる」意欲にあふれた指導者が築き上げてきたものなのだ。



## ～男子新体操聖地巡礼/盛岡市立高校⑤～

盛岡市立高校の練習を見て、印象に残ったのは「遊び」の多さだった。

もちろん、やるときはびしっとやる！

練習の終わりの挨拶も、このとおりに、きっちりやっている。

声も大きく、反応も早い。本当に気持ちのいい練習ぶりだ。

しかし。

ひとたび練習が終われば、練習しているんだか、遊んでいるんだかわからないくらいのほのぼののムード。下の2枚の写真は、本来は2年生の小山内くんがかかえられる役なのだが、なぜか横澤くんがかかえられている。「もっとこうしたらいいんじゃないの？」とアドバイスしているようでもあるが、単なる遊びにも見える。



それくらい楽しそうにやっていた。そして、横澤くんを見たあとに、しっかり小山内くんもやってみていた。ふざけているように見えても、横澤くんの足先は美しかった。そこを小山内くんはちゃんと見ていたようだ。



監督が体育館からいなくなっても、みんなでこうやって動いている。なかには鹿倒立をやっている子もいる。また、その日の演技を撮影したビデオが、その場で見られるようにモニターがあり、自分達の演技を見ながら、あーでもない、こーでもないと検討を重ねているメンバーもいる。

極めて自主性まかせの時間がとても多い、と感じた。

だけど、その時間をみんな無駄にはしていない。

監督が見ているときの、締まった空気とはたしかに違うが、それでも、みんなで大好きな新体操を究めようとしている姿勢が見える。

彼らは「新体操をやらされている」のではない。

そう感じられる時間が、たくさんあった。

こんな風にして強くなることができるんだ、それが私には大きな衝撃だった。

いいものを見せてもらった、本当にそう思った。



たくさんの感動を得ることができた盛岡を離れ、次はいよいよ青森へ。

次回から青森山田高校が登場です。

※おまけ

私が盛岡市立高校を訪ねた日、地元のテレビ局が取材に来ていました。そのときに、選手1人1人のインタビューを行っていたので、ちゃっかりその横にくっついて選手達のコメントをメモしてきました。テレビ放送ではそう長くは流れていないでしょうから、こちらでご紹介します。

●遠藤健太(3年)

2年生のときは、骨折してレギュラーから落ちて、気持ちもかなり落ちてしまいました。みんなに置いていかれるという不安と焦りばかりで、筋トレとかやれることをやるしかないと思っていました。でも、練習できない間は勉強にも身が入らなくて、なにもかもダメになっていました。

今年になって、やっとレギュラーに復帰できて、去年のことはふっきました。今は「みんなのために頑張りたい」と思っています。タンピングは、得意なほうですが、それは中学時代に練習以外にも遊びでバック転とかやっていて、それでうまくなったような気がします。インターハイでは、他のチームを圧倒するような演技をして、観客を魅了したいと思います。



●横澤勇氣(3年)

10位になってくやしかった去年のインターハイが終わってすぐに、個人専門になってしまい、インターハイの悔しさを団体で晴らすことができなくなってしまったのは、ちょっと残念だったんですが、今回のインターハイは、試技順もいいので、今年は優勝を目指します！ミスをなくして、自分の演技をして、喜んで先生のところに戻ってきたいと思います。今はまだ足がちょっと痛いんですが、これは今以上に悪くしなければ大丈夫です。

●小山内康朝(2年)

とび技は、すごくプレッシャーなんですけど、高く跳ぶのは楽しいです。自分しかできないことだと思うと、爽快です。先輩たちについていくのは大変ですし、ぼくにとっては初めて出場するインターハイですから、緊張しますが、岩手の代表として悔いのない演技をしたいです。最後の組み技は、こわい気持ちもあり



ますが、成功させれば自分にもすごい達成感があると思います。新体操は、自分が今、いちばん熱中しているものだし、これしかない！ と思えるもの。自分達にできる最高の演技をして、何かが伝えられて、人の心が動かされるといいと思います。

●三上健太(2年)

…取材時間の都合で、三上さんのインタビューはとれなかったようです。残念！ 写真はいい笑顔で写ってくれました。



●播磨秀亮(3年)…写真左端

身長がでかいので、大きく見えるのが自分のもち味なので、そこをしっかりと見せられる演技がしたいです。沖縄インターハイは、今まででいちばんの思い出になりそう。去年はダンスがこなせなかったけれど、今年は十分やりこなせるようになったと思います。去年はできないものも無理してやっていたところがあったけれど、今年はできるもので精度をあげてやってきているので。新体操は、見ている人がわいてくれたときにもものすごく達成感があります。今年は優勝したいと思っていますが、それ以上に自分達の演技をしっかりとやって、会場をわかせることができれば嬉しいです。



●國正瑞輝(3年)…写真の左から3番目

新体操は、見ている人に感動を与えることができるという表現ができるところが魅力だと思います。だから、僕たちもインターハイでは自分達のできることをやりきって感動させることができればと思っています。高1の秋からはレギュラーとしてやってきましたが、今年は3年生なので後輩を引っ張っていく立場で、恥ずかしくない先輩でいられるように頑張っています。ふざけたりもしていますが、やるべきことはしっかりとやって。インターハイでは高校3年間の思いをぶつけて、監督、仲間を信じてやりきりたいです。





●菊地俊洋(3年)

今年の演技は、3年待った甲斐があったと思えるものになっていると思います。去年の和歌山での悔しさもいいバネになっていて、今も、練習中にだれかが落ちていると「また負けたいのか!」と厳しく言うこともあります。本当にあのときの、先生や先輩、応援してくれた人達みんなに申し訳ない、顔向けできないという気持ちはもう味わいたくないので。今はチームの雰囲気もとてもよくて、いつも他のチームの人達からうらやましがられているので、

今年こそは、自分達で満足のできる演技をして、先生に恩を返したいです。

●小渡俊貴先生(滝沢南中学)・野呂和希先生(盛岡市立高校)

最後に、岩手県の男子新体操を支えるおふたりです。滝沢南中の小渡先生、わざわざかけつけてくださいました。お2人のコンビネーションもすばらしく、だからこそ、公立の中学→高校という環境でも、新体操的には「中高一貫システム」が機能しているのだろうなあ、と感じました。地元の子ども達の中から、これだけ高い確率でいい選手を育てるといえるのは並大抵のことではないと思いますが、おふたりの「新体操が好きな子どもを育てたい」「岩手県の男子新体操を盛り上げたい」という情熱が、今の岩手県の男子新体操を支えているのだと感じました。



男子新体操に恋してる！（BOYS2010・上）

<http://p.booklog.jp/book/51463>

著者：rgkeikos

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/rgkeikos/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/51463>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/51463>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ